# 令和４年度第４回未来会議（全体会）　議事録

鹿ノ台未来まちづくり会議（未来会議）会長　須都　紘
書記・広報　鈴木　豊

日時：令和４年７月17日（日）13:30～15:20
（各分科会の打ち合わせは17:30まで）

会場：西集会所

出席者：（順不同、敬称略）
須都　紘（会長）、伊藤　智子、黒部　實（以上　副会長）
鎌田　卓（事務局長・会計）、鈴木　豊（書記・広報）
黒田　勝行、田口　信義、谷猪　富貴子、中世古　昭一、中谷内　政之、
平井　誠三、山田　勲、山田　修
傍聴：中尾議員（生駒市議会）
欠席：蔵田　かほり、野津　拓也、山地　祐輔、渡辺　昇

配布資料：
① 議題
② 「子育て分科会」専門委員への委嘱書
③ 自治連合会主催　ウェルカムミーティングについて
④ 休日の親子イベントについて
⑤ 「高齢者分科会」活動報告書
⑥ 「第１回ソーラー発電（脱炭素まちづくり）勉強会」議事録

〇須都　未来会議会長より
・猛暑の中、また一番暑い時間帯に参加していただき、ありがとうございます。
・新型コロナウイルス感染症の新規患者数が爆発的に増加しており、昨日の時点で過去最多を記録した。大阪府や生駒市を含む奈良県でも感染者数は大きく増え、警戒を要する状況であるが、現時点では政府は行動制限を行わず、基本的な感染対策を徹底することで感染防止を進めるということである。当会

議としても皆さんにできるだけ早期に3回目･4回目ワクチンを接種していただくことと、基本的な感染対策を再度徹底して会議･活動を進めていきたいので、ご協力をお願いする。

○「子育て分科会」専門委員の委嘱について

・未来会議発足以来の構成員として活動している野津拓也さんから、諸事情により未来会議を退会したい、ただし子育て分科会には継続して参加したいと申し出があった。
・幹事会で検討した結果、やむを得ない事情であるため未来会議を退会とし、子育て分科会の専門委員として委嘱したいと考えた。いかがでしょうか。
　→　拍手で承認。
・委嘱書は子育て分科会から後日、交付する。

○自治連合会主催ウェルカムミーティングの報告（田口連合会会長）

・6月26日（日）に自治連合会主催でウェルカムミーティングを開催し、1月～5月転入の17世帯のうち10世帯から参加をいただいた。
・ミーティングでは鹿ノ台紹介ビデオ（特別編集版）を上映したほか、鹿ノ台の説明、いきいきホールの案内、コーヒータイムの歓談などを行った。
・配布資料として、自治連合会の役員名簿、生駒市の「くらしのあんしん」（高齢者向け健康ガイドブック）、自治連合会のサークル活動案内冊子、「子育てするなら鹿ノ台」チラシ、たけまる号「鹿ノ台線」の案内パンフレットなどをお渡しした。
・転入された皆さんからは、鹿ノ台に転入した理由など下記の意見を伺った。
　– 鹿ノ台は治安がよい
　– 静かな環境で、緑が多い（複数の声）
　– 広い家に憧れて鹿ノ台に来た
　– 大阪から引っ越してきた
　– 駅に近いし、大阪、奈良、京都ともにアクセスが良い
　– 小中学校の学力が高く、親子で頑張っている
　– 小児科のクリニックがないのが残念
　– 土地や中古住宅が値頃だった（複数の声）

・総じて転入後の満足度は高い印象を受けた。自治会がこのような会合を開催していることに感激されている方もいた。
・広い庭付きの家が値頃な価格で買えるので、鹿ノ台一択だったという声が印象的だった。
・配布資料も好評であった。
・自治会から付け加えたのは、「鹿ノ台が快適なまちである理由は、行政の取組みなどではなく、住民のまちづくりへの努力の成果である」ということ。「転入された皆さんに自治会に入っていただき、できる範囲で結構ですからボランティア活動にも参加してください」とお願いした。
・次回は令和 5 年 2 月に開催することが予定されている。

意見交換
・転入された皆さんは、どのように鹿ノ台を知ったのか？
　→ 売りに出ている不動産のリストをインターネットで見て、駅近なのに価格が値頃であることから、鹿ノ台を知ったという声が多かった。
・このような取組みを継続されていることに感謝したい。

○　令和 4 年度　宝くじ桜寄贈事業について（田口連合会会長）
・前回の未来会議で説明したとおり、ECOKA 委員会山田委員長から鹿ノ台造成 50 周年の記念事業として「宝くじ桜寄贈事業」に申請してはどうかと提案があった。申請の締切りは 6 月 30 日に迫っていた。
・当初、各地区にある街区公園も対象と考えていたが、街区公園は各自治会で管理しているため、自治連合会で管理している中央公園と運動公園に絞って、桜 150 本で申請する案を 7 月 3 日（日）の連合会役員会に提案した。
・役員から出た主な意見は下記のとおり。
- より景観の良い、季節感が感じられる街となる
- 老木となった桜が多いので、今の段階から植え替えが必要（以上、賛成意見）
- 桜を植樹する必要性を感じない
- 将来にわたる維持管理の計画がない
- 管理者である生駒市の手入れ等が不十分で、住民の手間がかかっている（以上、反対意見）
・意見交換後に採決した結果、反対多数で否決された。
・今回は急な提案であって十分に説明できなかったが、毎年申請できる事業な

ので、次年度以降、しっかり準備して再提案したい。

意見交換

・ウェルカムミーティングでは、鹿ノ台を選んだ理由として「緑が多い、環境が良い」という声があったが、「桜の植樹」という具体的な行動計画を出すと反対意見が出てくるのは残念である。どのように説明すれば環境を良くする行動に同意してもらえるかが課題だと感じた。

→ 公園の管理に自治会の手間がかかるかどうかということが大きな判断基準となっていた。公園の意義についての議論が必要だと思う。

・中央公園や運動公園は街区公園とは異なり、生駒市が草刈りや美化を実施しており、各自治会に手間はかからない。将来も美しい公園であり続けるために桜を植えて、ECOKA 委員会が手入れをするという提案であったが、時間がなくその趣旨が十分に伝わらなかったので、否決されたのではないか。次回は申請するまでに余裕を持って議論を始めることは可能か。

→ 申請書の書式は直前にならないと届かないが、大きく制度が変わることでもないので、事前に勉強しておく必要性を痛感している。

→ 行政からの事業案内が来る前に、先手を打って準備を進めるのがよい。

・公園において生駒市がサポートする範囲は元々市が植えた樹木に限られる。後で植えた樹木は住民管理となるため、継続して管理できる体制の提案が前提となる。

→ 地域の住民が植樹後の管理を行っている事例は、秋篠川の桜など各地にある。

→ いきいきホール建設の際も、維持管理をどうするのかという声もあったが、関係者が思いを持って事業を進めて成功している。

・公園管理だけの課題ではない。自治会活動全般において、事業の継続性をどのように確保していくかが大きな課題である。世代間で考え方に相違もあり、どのような仕組みを作っていけば継続できるか、検討していく必要がある。

→ 一方で、学校運営協議会は若い世代も入って活発に活動しているように見える。

→ 実際は協議会でも世代交代が大きな課題。途切れないように活動を繋いでいくことが難しいと感じている。

・自治会活動を継続させるためには、有償ボランティアの活用を試行していく必要があるのではないか。

・公園については、花や木を折る、危険な行為をするなど利用方法にも問題があ

る。生駒市青少年指導委員会で啓発チラシを作成したので、夏休みの前に子どもたちに配布して注意喚起する。

○　「子育て分科会」活動報告

鹿ノ台中央公園の魅力向上

・中央公園の魅力向上のため、ターザンロープを設置するという件について、「結ネット」に無記名の反対意見が掲載され、連合会長宛にも反対意見のメールが届いた。
・田口連合会会長及び須都会長と協議した結論として、この状況を踏まえて子育て分科会で改めて対応を検討することになった。検討結果については、適宜全体会議に報告していく。

意見交換

・（田口連合会会長）協議の際に三者の意見は一致しなかったが、先に「中央公園のあり方」を議論し、その考えに沿って中央公園に遊具が必要かを検討したらどうかと提案した。
　→　住宅地の真ん中に中央公園のような大きな公園がある例はあまりない。貴重なスペースであることを前提に検討してもらいたい。
・中央公園のあり方というテーマは、未来会議ではなく自治連合会で議論すべき事項ではないか。
　→　毎年、役員が代わる連合会でこのようなテーマを協議することは不可能ではないか。
・未来会議に新たな分科会を作るのか。
　→　子育て分科会から「中央公園の魅力向上策」として今回の遊具設置の提案が出てきた経過があるので、子育て分科会で検討したらよい。
　→　子育て分科会は、「子育てしやすいまちづくり」という観点から検討を進めている。今回の提案に反対している方は別の視点を持っておられるが、そのような方は分科会に居ないので、意見を聞くことができない。
　→　公園の利用促進という観点で遊具設置を提案したのではない。子育て世代の親から「公園に遊具を設置してほしい」という声があることも踏まえて、暗くて低利用の中央公園南西側に遊具を設置し、小学校横のこのスペースを子どもたちが楽しめる場所とすることで、鹿ノ台に転入を考

える親が小学校を見に来るときの印象を良くしたいと考えた。中央公園が使えないと言うなら、別のプランを検討するしかない。

・テーマとしては非常に大きいものであり、すぐに答えが出るものではないが、公園のあり方を議論しておかないと、遊具設置には至らないと思う。

→ 子育て分科会で遊具設置の検討を続け、成案にして未来会議に提案してもらうと、次のステップとして「公園のあり方」の議論に進んでいくと思う。

・海外では遊具が設置されていない、高齢者のための公園もある。子どものためだけではなく、鹿ノ台の住環境をより充実させるために、中央公園をどう活用すべきかということではないか。

→ そのようなことも踏まえた検討であれば、なおさら子育て分科会では荷が重い。

→ 有識者会議を設置して、諮問するということも有効かもしれない。

・各街区公園の遊具設置状況や使用状況は把握しているのか。

→ 街区公園に遊具が足りないという話ではない。鹿ノ台の大きなアピールポイントである中央公園の魅力をさらに向上させようという提案である。

・（会長）皆さんのご意見を踏まえ、分科会で再度、検討してもらう。

休日の親子イベント

・7 月 10 日（日）に、生駒市家庭教育支援チーム「たけのこ」（以下「たけのこ」という。）と打ち合わせし、下記のとおり決定した。

- イベント名：「たけのこ　ふれ愛 in しかのだい」
- 開催日時：11 月 6 日（日）10:30 - 12:00
- 会場：ふれあいホール（大集会室、小集会室、和室 A・B・C)、いきいき広場
- 主催：たけのこ、共催：生駒市教育委員会、鹿ノ台未来まちづくり会議
- 実施イベント：スライム、雪、松ぼっくりツリー、鹿さんバイザー、モルック、ボッチャ、バルーン（すべて子どもたちが喜ぶクラフトやスポーツ)、親サロン（子育て中の親の悩み相談）
- スライムはイベントの最初に呼び込みとして実施
- ボッチャは老人会の協力を得る
- バルーンはスポーツイベントの最後に実施
- お土産はセミの抜け殻に着色したもの

・参加費をどうするかは、たけのこで検討する。
・イベント当日のお手伝いスタッフが少し足りないので、未来会議の皆さんから手伝っていただける方を募集している。

放課後子ども教室「にじ」

・「にじ」は 6 月以降ほぼ毎週水曜日、これまでで 5 回実施している。月に 1 回程度は外部講師に来てもらっている。
・以下、外部講師による体操教室などの状況を写真投影により説明。
- 体操教室は子どもたちが大喜びであった。普段は図工教室から出ることができないし、校庭も使えないので、できることが限られてしまう。子どもたちのエネルギーをどう発散させるかが課題である。
- 外部講師と行ったパステル画作成も好評であった。
- ECOKA 委員会に提供していただいた笹を使った「七夕づくり」も楽しんでくれた。

・来週はオセロなどのゲーム大会をやる。
・今はまだ子どもも勝手がわからないので、一斉に同じことをやっているが、今後は各自の自発性に任せて、やりたいことができるように少しづつ移行していこうと考えている。

意見交換

・参加児童の構成は。
　→ 参加児童の 30 名のうち、低学年（1・2 年生）が 19 名と多数を占めている。
・これだけの活動をされるまでに成長されたことは、素晴らしいことだと思う。
・この活動はウェルカムミーティングで説明しているのか。
　→ 今年度は定員(30 名)に到達していることもあり、説明はしていないが、このような活動を行っているとの説明はしていただいて構わない。

○「高齢者分科会」活動報告

・第 2 回鹿ノ台支え合い準備委員会全世話人会議を 6 月 27 日（木）に開催し、参加者は 15 名（＋外部の参加者 4 名）であった。
・会議の概要は下記のとおりである。

生駒市環境保全課から「ゴミ収集サービス」の説明

・生駒市には「まごころ収集」という制度がある。これは、玄関に出された各種ゴミを無償で週 1 回個別に回収する制度で、鹿ノ台は毎週火曜日が収集日である。
・希望者にはゴミ収集時に一声かける安否確認も行われる。ゴミが出ていない場合は、指定の連絡先に連絡することが可能である。
・ただし、対象者が「本人、親族または近隣者が所定のごみ集積所にごみを持ち出すことが困難な世帯」で、次のいずれかの項目に該当する世帯に制限されている
  - 高齢者：65 才以上の人であり、介護保険法の要介護 2 程度以上の認定を受けた人で、ホームヘルプサービスを受けている人
  - 障がい者：身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者の各種福祉制度を受けている人で、ホームヘルプサービスを受けている人
・この制限のため、この制度を利用している世帯は市全体で 177 世帯にとどまっている。

「ゴミ収集サービス」に対する質疑・応答

・木津川市等では実施している個別収集を、なぜ生駒市では実施できないのか。
  → 生駒市では現在、ゴミ収集に年間 4 億円の経費がかかっている。個別収集にすればこの 4 倍程度の経費を要する見込みであり、予算確保が困難。
・「まごころ収集」を知らなかった。PR すべきである。
・「まごころ収集」の対象の拡充を希望する。例として、条件を緩和して、有償で対応する、「まごころ収集」のルートを活用した「ついでの回収」を行う、など。
・鹿ノ台のゴミ収集車の走行ルートを開示してほしい。

ライフケア創合研究所の活動説明

・会社概要及び活動の内容が説明された。
・生駒市の状況として、下記の説明を受けた。
  - 生駒市は介護人材の定住が難しい。
  - これまで養成した介護職員の多くが定年を迎え、離職している。
  - 外国人労働者が働きにくい構造でもある。
  - このような状況に対応するため、介護職員を増やす取組みを進めている。

ライフケア創合研究所に対する質疑・応答

・ゴミの個別収集に対応できるのか。

→ 個別収集希望者と収集事業者のマッチングを行うことは可能だが、必要な許可を受けていないので、当社がゴミ収集を担うことはできない。

・奈良市内で介護講座を開設しているということだが、この講座で認知症の知識を得ることも可能なのか。

→ ヘルパーの養成講座であり、認知症に対する内容は少ない。

・認知症の対応で重要なことは何か。

→ 認知症は病気であるという認識がまず重要。認知症への対応にはどうしても人手がかかるが、センサー等の IT デバイスの活用によって省力化が可能となりつつある。

全世話人会議

・委員の構成案が説明された。

- 委員会の参加者全員が世話人であり、その中から役員が選ばれる
- 特別な課題が発生したときには「特命世話人」が選出される
- 必要に応じてアドバイザーを設けることも可能
- 委員会の「全世話人会」と「役員会」の位置づけを明確化

・現状は委員会名称に「準備」を入れている、できるだけ早く「準備」を外せるよう活動していく。

・支え合うという目的のために鹿ノ台の関連委員会等の主要メンバーがこの委員会に参加していることの意義はたいへん大きい。

・今回は前半で説明を受けて時間を使ったが、次回は具体的な支え合い活動の仕組みづくりに対して議論を進める。

・なお、高齢者分科会としては、分科会から支え合い準備委員会に「どの課題をどのように持っていくか」という議論を行いたいと考えている。

意見交換

・「支え合い準備委員会」から「準備」を外すための工程表はあるのか。

→ 工程表はある。今年度中に「準備」が取れるようになる想定である。ただ、現状の委員会では組織論や規約など、また入り口からの議論になっている。大きな課題であるゴミ問題を話題にするとすぐに行き詰まるので、分科会としてはその他の課題に対して、できる範囲から取り組んでいきたい。

・分科会で課題を整理した資料に「鹿ノ台版シルバー人材センター」の提案があった。優れた提案であり、早期に着手すべきだと思う。

→ 分科会のメンバーも同じ思いで、早く取り組みたいと考えている。ただし委員会全体が具体的な施策を実行する段階に行くまでには、しばらく時間がかかりそうである。

→ 未来会議の高齢者分科会・全体会議と、準備委員会の世話人会の 3 つが入り組んでおり、どのように進めていくかが見えてこない。

・（田口連合会会長）近々に実際に活動する仕組みづくりを行う想定をしている。なるべく早く活動計画を共通認識にして、活動していきたい。

・「まごころ収集」を実際に申請したことがあるが、門前払いであった。条件が厳しく、市全体で 177 所帯しか適用されていないことが示すとおり、ほとんど使えない制度である。

→ 市の予算全体の中で、ゴミの個別収集に予算を割くなら、代わりにどの事業の予算を削るかもセットで提案しないと先に進めない。政策を変えるには、多くの市民の声が必要。自治会からも声をあげるべきである。

→ 個別収集している市もある。そことどう違うのか、生駒市では増税になるのか、具体的な金額を示してもらわないと優先順位をつけることもできない。

・ゴミの収集場所を変更してほしいという声もあり、個別収集へのニーズは高いと考えている。

→ ゴミ収集に関しては様々な意見が出てくる。続きは分科会で協議したい。

○「交流分科会」活動報告

・今後のまちづくりにはどのような施策が必要か、またこの施策を実現するためにはどんな推進体制が必要かなどを検討中である。まとまり次第、全体会議に報告する。

○「第一回ソーラー発電（脱炭素まちづくり）勉強会」報告

・勉強会の対象を広げるという意味で、名称に「(脱炭素まちづくり)」を追加している。

・6 月 22 日（水）に第一回勉強会を開催した。

・まず、脱炭素に関して、各国がどのように取り組んできたか、その背景は何かなどについて、世話人から説明した。
・「生駒市民パワー」の再生エネルギーの比率はどうなっているのか、「第一回脱炭素先行地域26箇所選定」に生駒市が入っていないなどの情報も共有した。
・世話人から「脱炭素 Q&A 全集」を作成したいと提案した。これは勉強会で使用した資料や出てきた情報を元に作成し、毎回加筆することで途中から参加される方の理解を促進するものである。
・私的な勉強会であって予算がないため、資料は作成者がメール送信し、参加者が印刷して持参することとした。
・次回は 7 月 28 日（木）13:30 - 15:30 から、いきいきホール 2 階大会議室で開催する。興味がある方はぜひ、ご参加ください。

◯　各分科会の打ち合わせ
・各分科会に分かれて、打ち合わせを実施

## 次回

日時
　令和 4 年 8 月 21 日（日）13:30 – 16:00
　　第 1 部　全体会　　13:30 - 15:00
　　第 2 部　各分科会　15:00 - 16:00
　　※「東西」の構成員及び幹事は 13:15 集合

会場
　西集会所

主な議題（予定）
1. 各分科会からの報告
2. 共通報告事項
3. 各分科会の打ち合わせ
4. その他

以上